

# 会 議 録

会議の名称	第1回 笠原小学校適正配置に関する意見交換会	
開催日	平成28年1月31日（日）	
開催時間	午前10時00分 開会・午前12時00分 閉会	
開催場所	笠原公民館 講座室 A・B	
議長（委員長・会長） 氏 名	鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会会長 矢部 保雄	
出席者（委員） 氏 名 (出席者数)	委 員 4名 千葉 一安 秋葉寿美子 奥木美恵子 伊藤 幸久 笠原小学校評議員 5名 杉田 栄一 岩崎 秀子 石井 正明 柳澤久留美 戸ヶ崎徹 笠原小学校 2名 校長 岩淵 雅浩 教頭 松澤 哲也 笠原小学校保護者 48名 保護者以外 14名 <div style="text-align: right;">計 73名</div>	
事務局職員 職 氏 名	教育総務部 副部長 加藤 薫 学校教育部 副部長 服部 幸司 教育総務課 課長 村田 弘一 副課長 川寫 利徳	
事 務 局 説 明		
<p>・笠原小学校は、現在、市内で児童の数が最も少ない小学校となっており、平成27年度の児童数は98名、平成28年度の新入学児童は10名を予定している。</p> <p>今後もこの減少傾向は続き、5年後には73名、10年後には62名と見込まれ、将来的には複式学級になることも予想される。</p> <p>・現在、笠原小学校の通学区域となっている安養寺地区の児童は通学距離が遠いという理由から、「通学区域の弾力化」の適用により、鴻巣北小学校に通学している状況であるが、安養寺地区の児童も含めて、笠原小学校通学区域全体で、鴻巣中央小学校への通学区域の変更について、ご意見を伺う。</p> <p>・常光小学校は、10年後の児童数を見ても、100人を超える小学校ですが、この</p>		

ままの状態です。少子化が進むと、将来的には100人以下になることも予想されます。このことから将来を見据え、子どもたちの通学する小学校について、ご意見を伺う。

・適正配置を検討する上で、通学距離が遠くなり、安心・安全な通学路の確保は、非常に重要なことから、スクールバスの導入や適正配置後の学校施設利用などご意見を伺いながら、取り組んでいく。

## 主 な 意 見

- ・小規模化は子どもたちの立ち位置、役割分担が決まってしまう、自分の意見を主張できなくなることが問題である。
- ・人数が少ないと、優秀な子とそうでない子の立ち位置が決まってしまうのが現状である。大きな学校との交流を持ち、大勢の人数の中に入る環境を進めてほしい。
- ・中学に入学し、大勢の人数の中に入り、どうしてよいか分からない子どももいる。保護者としては単学級ではなく2学級ある学校を望むが、もしこのままの規模の笠原小で進めるのであれば、1学期に1回くらいは中央小などとの交流を増やしてほしい。
- ・笠原小に中央小、常光小の子どもが通うという考えはないか。
- ・小規模は小規模なりの教育が経験でき、少ない人数でも対応できる学習方法もある。複式学級になってもいいと思う。
- ・人数が多いと切磋琢磨するというがそうは思わない。
- ・少人数学級のほうが教育効果は高く、児童に目が行き届く。
- ・笠原小学校は、同学年の人数は少ないが、異学年との繋がりがある。
- ・いじめの問題は、クラス替えで解決するのではなく、クラスの中で考えることが必要であり、子どもがそれを乗り越えることが大事だと思う。
- ・笠原小学校がなくなると、卒業した子どもが大人になったとき、地元に戻ってこなくなり、人口がどんどん減少してしまう。
- ・近くに学校があるから通わせている。学校がないと若い人が住まなくなる。
- ・学校をなくすことより、家が建ち、子どもを増やす政策を市として考えてほしい。

- ・魅力あるまちづくりをし、人口を増やしていくべきである。
- ・学校行事を通して地域と繋がっており、地域も学校に深く関わっている。
- ・学校の教育も大切だが、地域の皆さんに人間関係を育てていただくことも教育だと思う。
- ・小学校は地域の防災の拠点にもなっている。
- ・親としては、学校が遠くなると通学が心配であり、スクールバスでの通学では地域との繋がりがなくなる。また、子どもの体力面も心配である。
- ・少子化や時代の流れなどの問題は感じているので、この話も分からないわけではないが、笠原小学校を卒業し、歴史のある小学校がなくなるのは反対である。
- ・今ではなく、20年後、30年後を見て考えたい。140年の歴史のある学校がなくなるのは、非常に重大なことであり、若い世代の方からも意見を伺いたい。
- ・皆さんのご意見を聞き、笠原地域は良いコミュニティーができていると痛感しました。子どもの意見もよく聞いてほしい。